

架け橋期のカリキュラム作成のポイント

大館市教育委員会

ステップ1 お互いの生活や学びの様子、子どもの育ちを知ろう

主に1学期・夏休み

○お互いを理解するための研修や情報交換、交流を進めます。

園内、校内の研修で「架け橋期のカリキュラム」の意義やねらい、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」などを研修し、全職員の共通理解を図ります。

○子どもの実態を交流し、お互いの保育・教育内容や環境、指導方法等について理解し合います。

- ・保育・授業の参観、研究協議への参加、情報交換、保育体験などを通して、環境の構成や一日の生活の様子、子どもへの関わりなどについて理解し合います。
- ・「目指す子どもの姿」を視点に参観し、お互いの子どもの育ちと学びについて語り合います。

ステップ2 「架け橋期のカリキュラム」を作成しよう（R5年 充実期、R6年 5歳前期と1年後期）

○架け橋カリキュラム作成合同会議を開きます。

合同会議参加者(例)

園長 所長 校長 教頭 副園長
主任保育士 主幹保育教諭 教務主任 研究担当
4, 5歳児、1, 2年担任 架け橋C○, など

準備するもの(例)

- ・カリキュラム作成研修資料集(R5)、カリキュラム集(R6)
- ・模造紙・付箋・マジック
- ・園の全体的な計画、保育指針、学校経営計画、学習指導要領、年間指導計画、学年経営案、スタートカリキュラム、月案、週日案 など

進め方(例)

進行 教頭

- 1 はじめのあいさつ（校長）
- 2 自己紹介（1回目）
- 3 5歳児、1年生の様子について（担任、主任から）
- 4 協議
 - ・カリキュラムについて
 - ・交流活動について
 - ・次回の合同会議までの見通し など
- 5 終わりのあいさつ（園長・所長）

○学校区のA「共通の視点」B「架け橋期に期待する子どもの姿」等、「共に育てたい子どもの姿」を話し合います。

- ①学校区のA「共通の視点」、B「架け橋期に期待する子どもの姿」を子どもの実態等を基に共有します。
- ②市の共通版の期ごとのC「ねらい」D「目指す子どもの姿」を、自校区のA「共通の視点」に合わせて見直します。
- ③「架け橋期に期待する子どもの姿」、「ねらい」、「目指す子どもの姿」の整合性をチェックします。
- ④「ねらい」「目指す子どもの姿」は、期ごとに質の高まりがあるかチェックします。

The diagram illustrates the curriculum development process through seven steps (A-G) and provides a detailed curriculum plan for the Bridge Period. Step A involves identifying common perspectives. Steps B and C focus on expectations and objectives for the Bridge Period. Steps D and E involve checking for consistency and quality across periods. Step F is about sharing and reviewing, and Step G is about finalizing and implementing the curriculum.

学年	共通の視点	ねらい	目指す子どもの姿
5歳児	共通の視点	ねらい	目指す子どもの姿
1年生	共通の視点	ねらい	目指す子どもの姿
2年生	共通の視点	ねらい	目指す子どもの姿

○E「共通して充実を目指す活動・体験」を具体的に決めます。

- ①期ごとの「目指す子どもの姿」に対応させて、「経験させたい内容」を設定します。
 - ②生活科を中心とした合科的・関連的な指導となるように単元の構成と配列をします。(小学校)
 - ③「目指す姿」に関連のある行事や朝・帰りの会、「学び合いタイム」「読書タイム」「清掃」などの日常の活動も含めて位置付けます。
 - ④季節や園・小の行事、活動のねらい等を考慮し、より効果的に展開できる時期に位置付けます。
 - ⑤園・小の行事、FC活動、子ども・職員同士の交流などが効果的に位置付けられているか、無理なく実施できるかなどをチェックします。
- ※複数園、小がある場合は、活動の「ねらい」を同じにし、共通した活動名を付けるなどの工夫をします。

<ul style="list-style-type: none"> 学校探検や書探しなどから、伝えたいことを選んだり、伝え方を工夫したりする。 自分のよいところや夢、できるようにになりたいこと等、絵や言葉で表したり、友達と伝え合ったりする。 新しく出会う友達や教師と進んで関わり、一緒に活動する楽しさや喜びを感じる。 楽しく学習や生活をするために大切なこと（返事や挨拶、約束を守る、言葉遣いなど）に気付き、進んで実践しようとする。 学習や生活に見通しをもって、自分でできることは自分でしようとする、学習の準備を意欲的に行ったりする。 運動や遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守りながら誰とでも仲良く活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> あきとを、 ひまわり 上級 聞き 楽し 学習
(1) 楽しかったことや気付いたことなどを友達に伝え合う。	
<p><がっこうだいすき> (生活) (アイウエオカクケコ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達や先生と自己紹介し合ったり、学校探検や書探しをして見つけたものを友達と伝え合う。 「楽しくて嬉しそうに」 「自分紹介カードに名前を書く。」 「なんているかな」 「友達と一緒に言葉や動作を考える。」 「こんなもの、みつけたよ」 学校探検で見つけたものを友達と伝え合う。 <p>園児「好きなもの いっぱい」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「好きなものを発見したものを絵に表す。」 「どうしてこうなるのかな」 楽しく生活するためのルールやマナーを考える。 <p>体育「体はくしの運動遊び・園庭施設遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に秋自然物で遊んだり、かっこをしたりする。 <p>音楽「うたでなごよし」「なまよあそび」</p> <ul style="list-style-type: none"> 園で歌っていた歌や昔の歌を歌う。 名前だけでリズム遊びをする。 	<p><なりたい自分に向かって> (生活) (アイウオカク)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことや得意なこと、できるようにになりたいこと、夢などを考え、キャリアノートに書いて友達と伝え合う。 道徳「みんなじょうず」 自分のよいところを見付ける。 <p>くみんで力を合わせよう (アイウエオ)</p> <p>体育「走の運動遊び」</p> <ul style="list-style-type: none"> かっこよく玉入れ競争、ダンスなどの運動遊びに取り組み。 順番やきまりを守り、誰とでも仲よく遊んだり、場の安全に気をつけてたりする。 <p>特等・縦割り班の人と一緒に掃除に協力する。</p> <p>学習「運動会ががんばりたいこと」</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標を決めて取り組み。

☆こんなことも考えてみよう！

- 学校区の自然や特色を生かす。
 - ・ふるさとキャリア活動や地域の伝統文化、行事、季節の自然や文化を取り入れた活動など。
- 子ども同士の交流活動を位置付ける。
 - ・新しい交流の設定だけでなく、今行っている活動を「ねらい」に合わせて内容を見直す。
- 活動・体験を通して何を育てたいか明らかにする。

◇活動のねらいを記入 (城西学区)

みんなの力を合わせよう	
<p>○園年長になった喜びと意欲をもち、友達や年下の子どもたちと親しみをもって関わる。</p> <p><入園式・進級の会></p> <ul style="list-style-type: none"> 年長になった喜びをみんなと伝え合う。 入園のお祝いメッセージをみんなの前で発表し自信をもち、年長児として、年下の子どもたちと遊んだり手伝ったりして関わりながら、思いやりの気持ちや自信を深める。 <p><当番活動・クラス活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 年長としての役割を覚え友達と教え合って取り組む。 順番や必要な道具・用具を考え、みんなで準備したり確認したりする。 係を決めて、給食の運搬や配膳をする。 園行事やお誕生日会などの司会を務める。 みんなの役に立つ喜びを感じる。 	<p>○園の行い、合言葉、運動会</p> <ul style="list-style-type: none"> やってみよう クリエ 合い、 お泊 まり 楽し く やルー ン 活動 を 合 っ

◇「10の姿」で表す (釈迦内学区)

<p>★くたのしいあきいっぱい (オカキケ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 秋の自然物(どんぐり、松ぼっくり、栗、とちの栗、種の実、小枝など)を遊びに取り入れながら、季節の変化に関心をもつ。 作りたてのイメージを友達とやり取りしたり考えたりして作り、ごっこ遊びなどに発展させる。 生活科「あきまつり」に向けて、1年生と一緒に材料を集めたりおもちゃを作ったりしてやり取りしながら活動することを楽しむ。 「あきまつり」での遊びを園でも取り入れて、友達といろいろな表現を工夫しながら遊ぶ。 	<p>★くふゆをたのしもう (ウオカク)</p> <ul style="list-style-type: none"> 山登り、ソリ作り等、気温や自然の不思議と思いきり
---	---

◇重点を記号で表す (花岡学区)

<p>なつとなごよし (◆★♡)</p> <ul style="list-style-type: none"> 水・砂・土・泥遊び・池遊び 草花・色遊び・虫捕り 探検ごっこ・秋探し 季節の変化に気付く。 発見した物に興味をもち調べたり試したり言葉で表現したりする。 遊びに必要な物を考えて準備する。 遊びに必要な物を作る。 	<p>あきとなごよし (◆★♡)</p> <p>収穫(さつまいも、大根栗)・旗敷法(くるみ、松ぼっくり、どんごんなん、くりなど)</p> <p>雨、風、鳥の白さ、気運、感動、</p> <ul style="list-style-type: none"> 季節の収穫物を知る。 自然の魅力や不思議に気付く。 食べることを楽しむ。 感謝の気持ちをもつ。
<p>【地域の人といっしょ】♡</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで挨拶をする。 人と関わる楽しさを味わう。 地域のゴミ拾いをする。 花飾りを作る。 高齢者施設を訪問する。 	<p>【運動会ごっこ・ルールのある遊び】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちなりのルールをつくりあげる。 思い合う楽しさを味わい、協力し振舞う。 目標を決めて記録に振り返り挑戦

○F「環境の構成と援助」、G「家庭との連携」の内容を自校区に合わせて見直します。

- ①「共通して充実を目指す活動・体験」が効果的に実施されるようにするためのF環境の構成(○)と援助・支援のポイント(☆)、G「家庭との連携」を記入します。
- ②家庭との連携には、市で重点としている「メディアコントロール力」を高めるための研修や生活習慣見直しの啓発なども位置付けます。

○R6年度のカリキュラム作成合同会議

- ・5歳児前期・1年生後期のカリキュラム作成
- ・架け橋カリキュラム(充実期)の検証と改善を進めていきます。



架け橋期のカリキュラム活用・検証のポイント 大館市教育委員会

ステップ1 架け橋期のカリキュラムをもとに実践しよう(毎年)

○「架け橋期のカリキュラム全体計画」を基に、「年間指導計画」や「スタートカリキュラム」、「月・週・日案」などを見直します。(4～5月)

- ①各経営計画、全体計画、指導計画を学校区の「共通の視点」や「架け橋期に期待する子どもの姿」を基に見直し、重点化します。
- ②各活動や体験で身に付けたい資質・能力や活動の内容を、期ごとの「目指す子どもの姿」を基に見直し、重点化します。
- ③各指導計画に、「共通して充実を目指す活動・体験」と、それに関わる環境の構成と援助を位置付けます。日常活動などにも反映させます。

学年経営を「自立心を高める」ことを重点に見直そう。もっと子どもたち自身に考えさせる時間を位置付けよう!



言葉の力を高めるために、年間の「読み聞かせ」や「言葉遊び」の計画を立てようかな。

○相互参観と協議を行い、子どもの育ちと学びを伝え合います。

年間を通して相互参観を行い、子どもの姿から子どもの育ちや学びを伝え合い、「目指す子どもの姿」や「活動・体験」「環境の構成と援助・支援」などについて検証します。

○1, 2年生の参観

- ・安心して自己発揮できる環境の構成
- ・主体的な学習意欲を引き出す支援
- ・学習活動を通じた学びや育っている力などについて検証



○保育参観・保育体験

- ・学びの芽生えを育む環境の構成
- ・主体的・協同的な遊びを引き出す援助
- ・体験・活動を通じた学びや育っている力などについて検証

目指す子どもの姿

共通して充実を目指す活動・体験
ねらい、内容、時期
環境の構成と援助・支援

子どもの育ち・学び



計画・実践・検証

○交流活動と事前・事後の話合いで、活動のねらいや職員の連携、援助等を検証します。

事前・事後の話合いや交流活動の子どもの姿を通して、「交流のねらいや内容」、「職員の連携の在り方」、「環境の構成や援助・支援」などについて検証します。



事前・事後の打ち合わせのポイント

【事前の打ち合わせ】

- 交流のねらいを明確にする。
 - ・カリキュラムの「どの期のどの姿」に基づいた活動かを明確にし、活動で「育てたい力」を共通理解し、互恵性のあるねらいを設定する。
- 交流のねらいを達成するための環境の構成と援助・支援を明確にする。
 - ・子どもが主体的に遊びや学びを深めていける援助・支援を共通理解する。
- 環境の構成など、準備を協働的に進める。
 - ・小学校任せにせず、保育の立場からも環境の構成を考え共有する。

5歳児も主体的に活動できるようにしたいね!



〇〇なら5歳児もできそうですね。1年生が教えてくれてやり取りが増えそう!

【事後の協議】

- 交流したからこそ育ったこと、ねらいの達成状況を検証する。
 - ・振り返りシートなどを活用し、子どもの姿から育ちを見取る。
 - ・幼小それぞれの立場からの見方や考え方を共有する。
- 環境の構成、先生の関わりを検証する。
 - ・ねらいの達成につながった有効だった環境や援助・支援を共有する。
- 次回の交流、次年度の交流の改善ポイントを明確にする。



1年生がしていることを真似たり、1年生に相談したりする姿が見られました。

○カリキュラム作成合同会議では、充実期カリキュラムを検証して改善すると共に、5歳児前期・1年生後期のカリキュラム作成に生かします。

①合同会議では、「充実期カリキュラム」の「共通の視点」や「期待する子どもの姿」が適切か、また、それぞれの活動・体験をすることがその姿につながっているかを検証します。

②相互参観や交流活動の振り返りを基にして充実期カリキュラムを改善し、次のカリキュラムに生かします。

◇釈迦内小学校区では、「交流振り返りシート」を活用して、様々な改善につなげています。



- ・交流振り返りシートを活用することで、会議の時間が取れなくてもお互いの振り返りを共有し改善につなげられました。
- ・5歳児も1年生も主体的に活動できる交流、気軽に継続できる交流を目指して改善を重ねています。
- ・交流後の子どもの変容も伝え合い、共有することができました。

大館市立釈迦内小学校区 交流振り返りシート 

交流行事名 「あきまつり」に向けて園であそびを探そう！

実施年月日 令和5年10月31日(火) 場所 向陽こども園 園庭
令和5年11月1日(水) 釈迦内保育園 園庭

向陽こども園の気付き

- ・1年生から事前に「あきまつり」に向けての手紙をもらってから、ずっと楽しみにしていたので、1年生が園に来てくれたことを喜んでいました。会場の少ないグループもあったが、保育園を中心に「こっちにもあるよ」「あっちに行ってみよう」と話しながらあそびを始める姿が見られた。振り返りでは「○○くん・仲良くなった」「○○さんと一緒に集めて楽しかった」など、お互いの名前を覚えていたのが印象的だった。

釈迦内保育園の気付き

- ・1年生の手紙から期待感をもって通っていたので、それに関心を持って活動しようとする姿もあったが、グループの名称があっただけで、互いの名前を確認しながら進めることができた。園庭の広い場所の木の葉を取ろうと協力する姿を見守ることで達成感を感じる姿につながった。保育士も名前を付けていたことで、「これも使っていた」と尋ねることができた。

釈迦内小学校の気付き

- ・事前に、「チームで行動する」「園の子たちをたくさんほめる」など、関わり方について確認をして臨んだが、あきまつりに参加になって、限られてしまうチームもいた。一緒に行動しようという意識は見られた。青組さんが身近な場所ということもあり、1年生に教えてあげたり、高いところは台を使って取ったりと、普段の生活が活かされている場面があった。とても良かった。(こども園)
- ・昨日、向陽さんとの交流を通して、「チームでまわって動けなかった」「ほめる声かけを忘れたい」という反省を生かして臨んだ。子どもたちも意識して、手をつないだり、「いいよいいよ」はっば取れたわ」と声をかけたりする場面も見られ、接し方に変化があったことに成長が見られた。伊り組さんの振り返りで、「そうすけさん」など、相手の名前を付けて、話すところがとてもよかったです。(保育園)

次回の交流に向けて

- ・届くまでの活動になるので、1年生と話し合いながら、楽しく活動してほしい。(向陽)
- ・3人のグループは互いの顔が見える分りやすい人数であると思った。これから取り組む作業も子供たちの手で、可視化できると良いと思った。(釈迦内)
- ・向陽さんとの交流の仕方振り返り、「チームで動けなかった」「ほめる言葉を忘れたい」などの反省があったので、明日の釈迦内保育園との交流は、その点を改善して活動していきたい。次回のものづくり活動でも、「班で行動」「チームで協力」「相手意識をもって」など、交流が深まるよう、次回のものづくり活動でも、「班で行動」「チームで協力」「相手意識をもって」など、交流が深まるよう、事前に復讐して臨みたい。また、名前を呼んで話したり、振り返りしたりするところも、保育園とのつながりを意識して実践していきたい。(小学校)

ステップ2 架け橋期カリキュラムの評価・改善をしよう(毎年)

主に冬休み・3学期

○カリキュラムが各小学校区の実態に即したものとなるように、毎年、評価・改善を図ります。

- ①カリキュラムの実践による子どもの変容、職員の変容を明らかにします。
- ②カリキュラムの実践が「期待する子どもの姿」につながっているかを子どもの姿で評価し、子どもの実態に応じて改善します。
- ③合同会議で話題になった子どもの育ちを、委員だけでなく、園・学校の職員間で共有します。
- ④チェックリストを活用してカリキュラムの内容と実践を振り返り、職員間で共有すると共に、改善に生かします。

架け橋カリキュラム改善のためのチェックリスト

- カリキュラムの作成と実践は、子どもの育ちにつながりましたか？
- カリキュラムの作成と実践は、子どもの育ちや学びのつながりを意識した保育・教育につながりましたか？
- 「架け橋期に期待する子どもの姿」、「目指す子どもの姿」は、子どもの実態に合ったものでしたか？
- 「共通の視点」(重点的に育てたい力)は、子どもの実態に合ったものでしたか？
- 「共通して充実を目指す活動・体験」のねらいや内容、時期は、適切でしたか？
- 「環境の構成・援助」、「家庭との連携」は、適切でしたか？
- 子どもの交流、職員の研修、情報交換等は、年間を通して意図的・計画的に実施されましたか？
- 具体的な子どもの姿を基に評価したことを共有し、次の改善につなげましたか？
- カリキュラム作成の話合いは、気軽に対話できる教職員関係の構築につながりましたか？
- 地域や保護者に「架け橋プログラム」や「幼児期の育ちの大切さ」について理解を深めるための講話や研修等を工夫しましたか？